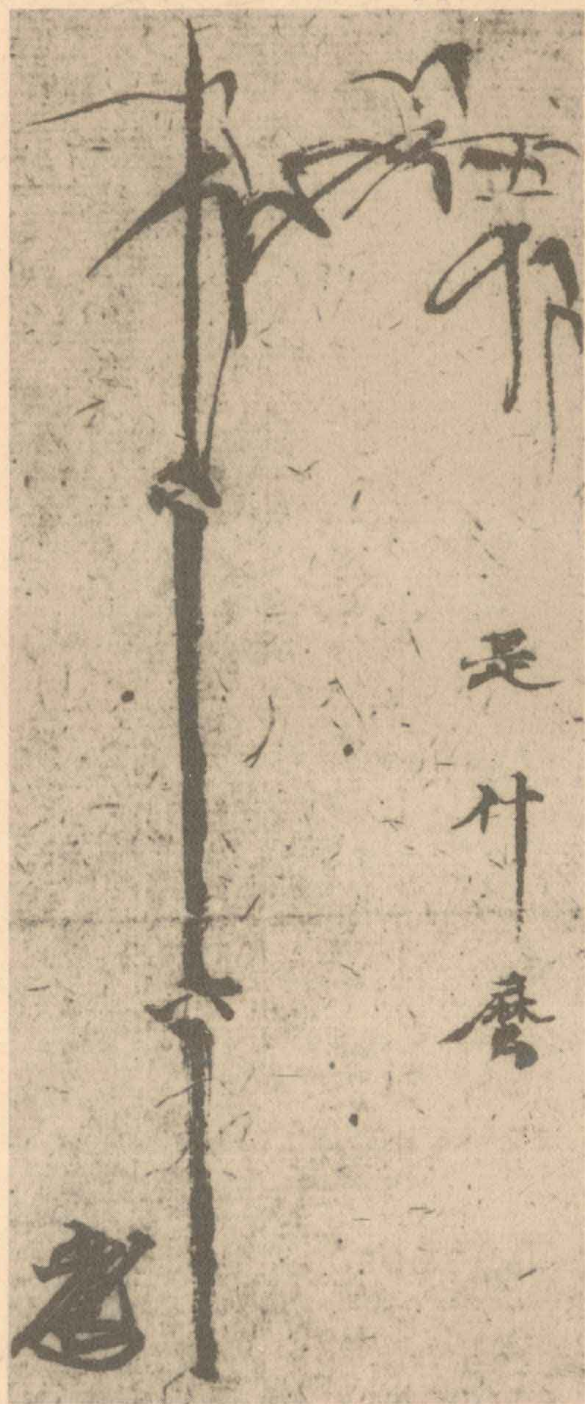


止息滅盡三昧詩



止息滅盡三昧詩

高島宇朗

止息滅盡三昧 詩

昭和六十二年十月三日第一刷発行

著者 高 島 宇 朗

発行者 高 島 力 郎

大阪府守口市佐太中町二二三三

制作 朝日カルチャーセンター

大阪市北区中之島三一二四

発売 創芸出版株式会社

大阪市北区東天満二一九一四

定価 一、五〇〇円

© 1987

落丁・乱丁はお取替いたします。

ISBN4-915479-25-0

目次

第一義空三昧	11
華手經 抜粹	13
大方等大集經 抜粹	13
無言童子經 抜粹	13
雲閒吼	14
虎斑集	37
世世囉嘻鈔	37
ひとり旅	37
眼花鈔（めざめの偈）	38
三生先師に追呈す	38
無生法忍	39
由布嶺頭孤雲	41
いのち	40

小金井 74

淡として 75

野に來れば 76

提示 76

青木繁油畫寂靜贊 77

馬遠が塞江濁釣 78

古瓢 80

眼花 82

光る 83

陽うすれ 83

芭蕉の芽 84

のうのうと 85

あははあはは 85

枯木櫛 86

無味にして 87

無刹不現身 88

山中はここにあり 89

甜しとおもふ 89

至夜口占 90

豪華なり 91

散る花よ

うれしいか 92

夜空いっぱい 92

晚霰聽居 93

眼處聞聲方得知 94

提撕 95

しんじつを

おもはする 97

如來地	123	金剛經曰	121	高歌	119	長意	115	氣魄	111	談義	108	屈しては	106	天に倚つて寒き	104	遠火	102	氷繭鈔	102	直往	99	提綱	98	夜冷のうた	98	それ一木	100	貧のままごと	103	一眞實	104	貧なるが故に	107	閒なり	109	春を帰らぬ	113	青木繁畫	117	早春に題す	120	水に似て	122	わが枝光の	125	おもいで	明星爛爛
-----	-----	------	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	------	-----	---------	-----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----	-------	----	------	-----	--------	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	------	------

ものをいふてゐる 127
といふはなにもの 128

是什麼(三生先師に追呈

す投機偈) 128
見るうちに 129

白浄歡華 131

夜明鈔 133

雲門曰露 133
閒田地 134

杲日鈔 136

自土 136
白葩團樂 137

白蹈鈔 140

烜赫 140
十世古今始終 141

止觀 143
当念に在り 141

神變海波光 144

無為 145
青木繁畫 146

針を貫く婆子讚 146

いづれえらばむ 148
秋晴のひる 149

長閑

150

施轉

153

涼爽

155

碧雲鈔

158

南泉山碧雲寺

158

窮谷鈔

159

古人の如く

159

僧なれば

159

ひるのめさまし

160

横岳祖師意

160

はだか

161

龍の如く

161

山住の

162

焚火して

163

説法

163

佛法は

164

隠居屋のばばさま

165

把針

168

函蓋乾坤

170

埋髪

172

虎は野に

175

江山鈔

177

春の晴れ

177

數珠の音する

178

原田鈔

原田山居

180

崖崩

181

白雲を看る

182

崖に藤咲く

183

閃爍

184

薄

186

空意

187

虎

189

山谷春雨

191

止息滅盡定

191

山居

193

無背窟生死事大

194

青木畫

武藏野不二贊

195

佛法ぞ

196

小欲にして

足るを知り

198

佛に獻ずる

199

春を花みる

199

國破れたり

といえども

200

兩手杖

201

暮春の壺

202

日のくま

203

呼子鳥

204

鳩 205

鶏頭花 205

山居菊黄なり 206

まどろむ 207

土鳩笛 208

つかれたり 209

虎斑残……………210

ほのめき 210

通り雲 211

小笹 212

延岡城跡 212

板獅子 214

緑夜酌酒 218

下弓削濱吟歩

千鳥 219

青梅 221

さびしいか 222

野寺雜詠晩望二 223

拏霞陀詩樓獨棲酒吟

小春日 224

活けるを摺む 225

陋巷に 225

毒草の 225

妻がさと 227

青木繁黄日贊 226

喃喃喋喋 230

不是心 233

筑後の八女の

茶山うた 234

末後の句 237

ひなた水 239

消息 239

無背窟 241

白雲を看る 243

薯塊 243

佐佐木神社 244

櫨紅葉 247

すみれの小春 247

山にいねて 248

生縁等 250

葉信 254

眼花集鈔 256

點 256

朝顔 257

無生法忍 258

石臼の音 259

明星 260

杉 261

車後展望 261

須菩提像 262

羅喉羅像 263

故人の言	264
------	-----

挿図・書画

字朗葉書	26
字朗短冊	44
青木繁画「霜林冬池」	73
字朗掲額	105
字朗短冊	197
澤木興道禅師葉書	255
青木繁画「苦闘の字朗」	268

あとがき	269
------	-----

第一義空三昧

朝參 ちようさん

暮請 ぼしう

三二十年 さんにじゆうねん

千七百の公案 せんしちひやく こうあん を

しらべ つくして しまう ても

さつぱりと

慾 よく を はなれて

情意 じようい を 殺 ころ し

無所有處 むしいうしよ

第一義空三昧を

坐破し 來たる に あらざれば

自分自身の氣ごろが

おもふ よう には

ほどけて くれず

荷を 卸したる

快活の

日の 目を ば

見る ことは できぬぞ

昭和十二年九月二十二日五時四十分杲窩作

華手經

應爲他說是三昧

大方等大集經

今此三昧乃是一切諸佛之所說也。一切諸佛之所處也。一切諸佛之印可也

無言童子經

譬如虛空。虛空無際悉能容受一切佛土。執持衆水。一切諸火却燒之時。一切衆生無退處。聽其所歸作處所。虛空之城廣遠玄曠。

雲間吼

獨虎

明治四十年 宇朗 三十歳前後の頃 當時の住居 久留米市外 東
野中 東田の屋敷の外廓 高良川 縁の 眞竹藪に 入りこみ
目 顔に 障る 笹の葉を ばさつかせ 根ざらひ をして居て
ふと氣が附くと 鎌を持つ 手 が ひとりでに 動いて居る

體覺 感觸が 喪失して居る

自分が 空洞に なつて居る

勞なく 苦なく 作務は さつさつ と はかゆく

うその やうな 自由自在

はづみで 怪我 しても うち切つても 痛くも 痒くも あるま

じと 思へる 不思議 奇怪に 手を止めて そつと している

と 當時 久留米 吉井 間を 定期 往復した 石油發動汽車の

二三町 北 高良川橋を 東行せる音も 藪の 隙間から のぞ